

ゆうやけ橋わたって

柿村イサナ

なんにもない町だと思う。

流行りの本と雑誌しか置けない、改札前の小さな本屋。いつも老人でいっぱいのカフェ。たいして美味しくないパン屋に、たいして美味しくない焼き肉屋。スーパーが遅くまで開いているのは嬉しい。コンビニと調剤薬局だけはたくさんある。小さなお店が潰れて、その後をやっばりコンビニと調剤薬局が埋めていく。そのうち全てのお店がコンビニと調剤薬局に置き換えられるかも。

今日はちよつといいものを食べようと、お豆腐屋さんで飛竜頭を買った。トースターでカリカリに焼いて、生姜と葱をたくさん乗せて、出汁醤油をかけて食べるんだ。刻んだ人参や蓮根がたくさん入った飛竜頭は、この町の「なんにもない」への数少ない抵抗勢力かも。

帰り道、自転車で富士見橋を渡る。

線路の上にかけられた橋からは、名前の通り遠くにちっぽり富士山が見える。今日はガスがでているので、小さな富士山はティッシュよりも薄くて頼りない。

夕日も見たくなって、一本隣の橋まで足を伸ばすことにした。今日はこ

の後とくに予定もないし。一日家にいて、飛竜頭を買ったためだけに外に出た、と言うのも寂しいし。

隣の橋の名前もそのまんま「夕やけ橋」だ。ちょうど沈んでゆく太陽が、雲を照らしている。こっちの富士山はよく見える。橙色の背景に、くつきり切り抜いたような紫色のシルエット。

ここまで来ると朝焼けも見ないとバランスが悪いような気がして、もう一本だけ橋を渡ることにする。だいぶ遠回りになるけれど、運動すればそれだけ飛竜頭が美味しいかもしれない。朝焼けの橋は少し離れたところにあるので、今ままであまり足を運ばなかった。でも、本当は夕焼けより朝焼けの方が品があつて、静かで、好きなんだ。

橋の上には、他にも人がいた。犬を連れたいおじいちゃんや朝日を眺めている。眉毛の上が真っ白になった老犬と、杖をついたおじいちゃん、合わせて7本足だ。

二人と一匹で朝焼けを見た。犬はよぼよぼと耳の後ろをかいている。朝焼けを堪能して橋を渡ったら、うちの近くはもうすっかり暗くなっていた。

さあ、急いで帰って飛竜頭を食べよう。